



女子複

フジカキ 銀

ロンドン五輪
London 2012

バドミントン日本勢初メダル

ロンドン五輪第9日の4日、バドミントン女子ダブルス決勝で藤井瑞希、垣岩令佳組（ルネサス）は世界ランキング2

位の田卿、趙芸蕾組（中国）に0-2（10-21、23-25）で敗れ、銀メダルだった。中国勢はこの種目で5連覇を果たし、趙芸蕾は混合ダブルスと合わせて2冠を達成。3位決定戦は無気力試合で失格処分となった1次リーグ上位ペアに代わって繰り上がったペアの対決で、ソロキナ、ビスロワ組（ロシア）がブルース、リ組（カナダ）を下した。女子シングルス決勝は全英オープン覇者の李雪芮（中国）が世界ランキング1位の王儀涵（中国）を2-1（21-15、21-23、21-17）で破り、初の金メダルを獲得。3位のネワルはインド勢初のメダル獲得。

柔と剛かみ合う

シングルスでジュニア時代から実績を積んだ前衛の藤井が抜群のセンスでシャトルを散らし、女子では珍しいジャンピングスマッシュが武器の後衛、垣岩が豪快に決める。「フジカキ」は柔と剛が組み合わさった、理にかなったペアだ。躍進の一番の要因は「垣岩のレシーブがうまくなった」（朴柱奉監督）ことにある。攻撃の爆発力と引き換えに守備面のもろさもあったが「レシーブの幅が広がった」（垣岩）と昨年から安定感が増した。垣岩が前に出る場面でも、低く速いラリーに対応できるように増え、攻守の引き出しが増えた。

2人の関係も強みだ。ダブルスは意見がぶつかり合っても、この2人は「家族みたいな存在」（藤井）というほど仲がいい。それもなれ合いではなく、藤井が「とにかく話す。2時間でも3時間でも、その日のうちに解決したい」と、とことん向き合う。勝ち気で強気な藤井が、おとなしい後輩の垣岩を引っ張る中で、しっかり者の垣岩が「実は突っ込みどころがいっぱいあるんです」と冷静に藤井の抜けた部分を突く人間関係も面白い。がっちりかみ合った2人が、ロンドンで息の合ったプレーを見せた。

女子ダブルス決勝 中国の田卿、趙芸蕾組と対戦する藤井（右）、垣岩組（左）

